

平成 29 年度労災疾病臨床研究事業

## 医療機関における両立支援の取り組みに関する研究

研究代表者：中村 俊介 独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山ろうさい病院 救急科

【研究目的】本研究ではマーケティング手法を用いて労働者・患者、医療機関、事業者等のニーズを分析し、医療機関が両立支援を実施する場面で用いるコンサルティングツールを開発することを研究の基幹として、その手法を確立する過程で医学部附属病院や疾患別診療連携拠点病院へ応用展開して両立支援を実践する医療機関の裾野を広げることを目的に研究を進めた。

【研究方法】平成 29 年度においては、以下の項目について研究を行った。

1. 両立支援のための支援ツール（コンサルティングツール）の開発
  - ・両立支援が機能している医療施設、また事業所における産業保健スタッフ、人事担当者、治療と就労の両立の経験がある労働者を対象としたマーケティング調査
  - ・がん患者の治療と就労の両立に関する電話相談を受けている相談員に対するヒアリング調査
  - ・患者ニーズ、事業所ニーズ、労働者健康安全機構の取り組み、先行研究についての調査
2. 医学部モデルの構築と展開
  - ・産業医科大学病院における診療各科・各部門における両立支援の調査、院内の両立支援体制の整備
  - ・東京慈恵会医科大学附属病院における、治療と仕事の両立に関する主治医意見書作成のための院内体制の検討、整備
3. 疾患別拠点病院におけるモデルの構築と展開
  - ・肝疾患診療連携拠点病院における肝疾患患者の両立支援ニーズについての調査
  - ・肝疾患患者への啓発資料の効果の検証
  - ・肝疾患連携拠点病院における職業調査
  - ・肝疾患連携拠点病院と産業保健総合支援センター・労災病院、社会保険労務士との連携に関する調査
4. 人材育成手法に関するマニュアルや研修との調和
  - ・両立支援のための人材育成を目的とするマニュアルの確認
  - ・人材育成手法に関する検討
5. メディカルソーシャルワーカー（MSW）の役割と効果の検討
  - ・DPC 対象である医療機関の病床あたりの MSW の数と平均在院日数との相関についての調査

## 【研究成果】

### 1. 両立支援のための支援ツール（コンサルティングツール）の開発

両立支援においては、労働者・患者が必要な支援に辿り着く段階において障壁があり、実効性のある意見書の作成に関連した障壁、就労定着に向けた継続的支援に関する障壁が問題となっていた。患者、事業所のニーズの調査、先行する研究で開発された「両立支援システム・パス」の報告を踏まえて、ステークホルダー間の信頼関係を構築するため、各々のニーズを理解することの重要性が確認された。

労働者健康安全機構は、治療就労両立支援モデル事業として両立支援コーディネーターの研修を開催し、その養成を進めている。両立支援における障壁を乗り越えるためには、コーディネーターを核とした多職種チームによるアプローチが重要となる。

コンサルティングツールの開発においては、まず医療機関における両立支援のシステムを構築するための必要事項をメニューリストに整理し、さらに主治医、看護師などの多職種スタッフに向けたマニュアルの作成を進める予定となった。

### 2. 医学部モデルの構築と展開

1) 産業医科大学における取り組み：診療各科の両立支援の取り組みについてアンケート調査を行い、ワーキンググループによる大学病院における両立支援体制モデル構築を目的とした活動が進められ、「就学・就労支援センター」、「両立支援科」が設けられた。今後、モデルケースについて運用に関する手順やマニュアルが整備される予定であり、意見書の書き方などの研修会等、広報啓発活動も実施される予定である。

2) 東京慈恵会医科大学における取り組み：モデル構築を目的としたワーキンググループによって、患者支援・医療連携センター内に両立支援担当を設置し、診療科・疾患限定のもとに意見書発行の手順の設定、周辺環境の整備が行われた。各診療科のヒアリング調査、企業のヒアリング調査を行い、企業等のニーズに見合う、両立支援プラン作成に役立つ、質の高い意見書を発行するため、医療機関側だけでなく、企業側の環境整備も重要であることが明らかになった。

### 3. 疾患別拠点病院におけるモデルの構築と展開

1) 肝疾患診療連携拠点病院における肝疾患患者の両立支援のニーズの現状と対策：佐賀大学医学部附属病院の肝臓糖尿病内分泌内科外来において、就労状況のアンケート調査を行い、両立支援への潜在的ニーズが存在することが明らかとなった。

2) 肝疾患診療連携拠点病院における職業調査と両立支援体制の構築：職業調査によって、肝疾患患者の就業状況が明らかとなり、調査を通して職業聴取に関する肝臓専門医の意識が改革された。また、積極的な対象症例へのアウトリーチ、多職種のチームによる相談・支援体制の充実などを肝疾患で展開することの重要性、さらに肝疾患コーディネーターに

よる両立支援の推進の必要が示された。

4. 人材育成手法に関するマニュアルや研修との調和：医療機関で両立支援を進めるためには、職員に対する啓発や人材の育成が重要であり、院内研修などで使用されるテキストの重要性が示された。

5. メディカルソーシャルワーカー（MSW）の役割と効果の検討：MSW 増員が平均在院日数の短縮に影響をもたらす可能性が示唆された。

【結 論／今後の展望】医療機関における両立支援を円滑に進めるためのコンサルティングツール開発に向けて調査を行い、大学病院におけるモデル構築、人材育成手法の検討を行った。今後、支援ツールの開発またメニューリストの整理を進め、その後に実証を行う予定である。さらに大学病院でのモデル構築、医学教育における教育方法についての検討、医療機関内の両立支援に関する院内研修等で用いるテキストの開発について検討を進める予定である。